

投稿規定

昭和54年1月1日	制定	昭和60年5月21日	改正	平成元年1月31日一部改訂	平成2年4月1日	改正
平成3年4月1日一部改訂		平成6年1月1日一部改訂		平成9年4月1日一部改訂	平成10年4月1日一部改訂	
平成11年4月1日一部改訂		平成15年4月1日一部改訂		平成16年4月1日一部改訂	平成17年4月1日一部改訂	
平成19年4月1日一部改訂		平成21年9月1日一部改訂		平成25年1月1日一部改訂	平成27年4月1日一部改訂	
平成28年1月1日一部改訂		平成28年4月1日一部改訂		平成29年4月1日一部改訂	平成31年4月1日一部改訂	
令和2年4月20日一部改訂		令和3年4月1日一部改訂		令和3年10月5日一部改訂		

1. 学会誌「応用地質」は以下に示す内容から構成され、本学会員は1)～11)について投稿することができる。なお、原稿は他の学術誌等で審査中／印刷中／印刷済みの原稿と重大な重複がないものとする。

- 1) 論 説：応用地質および関連学問分野に関して大局的視野から論じ、将来の方針を示唆するもの。
- 2) 論 文：新技術の開発、新しい理論の適用、大規模実験、現場の地質解釈、各種調査、試験、研究結果等について論述し、かつ考察を述べたもので、独創性新知見があるもの。
- 3) 速報論文：論文と同様な性格を持つものであるが速報性の高いもの。
- 4) 報 告：各種工事における計画、調査、設計、施工および各種調査、試験結果等について、事実や状況、現象等を述べたもので、応用地質学的に価値の高いもの。
- 5) 短 報：報告と同様な性格をもつものであるが、新事実の発見、技術改良などの簡単な報告、速報的なものも含む。
- 6) 解 説：測定技術、トピックス等について説明するもの。講座的なものも含む。
- 7) 資 料：会員の参考になるデータを取りまとめたものや文献のレビューなど。
- 8) 提 言：1)～7)に属さないもので、応用地質にかかわる問題提起。
- 9) 討 論：本誌に掲載された1)～8)に対する学術的、技術的な討論。
- 10) 応用地質アラカルト：応用地質に関する提案、記事、知見などの紹介。
- 11) 会員の声：会員からの提言、意見、連絡、情報等の紹介。
- 12) Q & A：応用地質あるいは本学会に関するQ&A。
- 13) 文献紹介：編集委員会が適当と認めた文献の紹介。
- 14) 支部だより：本学会支部の事業、運営についての報告。
- 15) 研究部会だより：研究部会の事業、運営等についての報告。研究小委員会の活動報告等も含む。
- 16) 賛助会員のページ：賛助会員の事業内容等の紹介。
- 17) 学会記事：本学会の事業、運営等についての報告。
- 18) 会 告：本学会および本学会に関連の深い各種学会、シンポジウム等の会告。
- 19) そ の 他：上記1)～18)に挙げたもののほか、編集委員会が適当と認めた事項。訂正も含む。

2. 原稿の種類と長さは原則として以下のとおりとする。

(図、表を含む刷り上がりページ数)

論説、論文、報告、解説、資料、提言 8ページ以内

速報論文、短報、討論、応用地質アラカルト 4ページ以内

会員の声 1,000字程度

なお、1ページは2,444字（「会員の声」は除く）である。上記のページ数を超えた場合および投稿者の責任による訂正を掲載する場合、投稿規定別記に示す超過ページの費用を投稿者が負担する。

3. 投稿者は本学会員、もしくは本学会員を含む団体（本学会・研究小委員会を含む）とする。2名以上の連名の場合は筆頭著者が会員であればよい。ただし、編集委員会が必要と認めた依頼原稿の場合はこの限りでない。
4. 共著者は原稿の完成に貢献をしている者に限る。
5. 原稿は、別に定める執筆要領に従って和文または英文で作成すること。
6. 投稿は原稿の電子ファイル（PDFファイル形式）を提出する。電子ファイルの総容量は、投稿規定別記で定める容量以下であること。総容量が超過する場合は、投稿規定別記で定める容量以下に分割して一連番号をつけて提出すること。

7. 原稿には所定の様式の投稿原稿整理カード（後掲）の電子ファイルを添えること（投稿原稿整理カードの電子ファイルは学会ホームページ（<http://www.jseg.or.jp>）よりダウンロードして下さい。）
8. 投稿は随時とする。ただし、討論原稿の受付は、原則としてその対象とする原稿が掲載されてから6か月以内とする。
9. 投稿原稿の採否、掲載順序、体裁の統一は編集委員会が行う。また、編集委員会は投稿原稿について、原稿の種別変更、内容・字句の加除・訂正を求めることがある。
10. 投稿者は受理後、別途定める著作権譲渡同意書に必要な署名をし、改ざん防止処理をした電子ファイル（PDFファイル形式）を提出すること（著作権譲渡同意書は学会ホームページよりダウンロードして下さい）。受理原稿のデータは原則として、文書はMicrosoft Word、表はMicrosoft WordもしくはMicrosoft Excelで作成し、図・写真は高解像度の汎用画像ファイルで提出すること。電子ファイルの総容量は、投稿規定別記で定める容量以下であること。総容量が超過する場合は、投稿規定別記で定める容量以下に分割して一連番号をつけて提出する、もしくはCD-ROM等の電子媒体を用いて郵送で提出すること。必要となる著者負担金を納付すること。
11. 学会誌におけるカラーの図、表および写真の掲載に伴う印刷等の費用（投稿規定別記に示す）およびJ-STAGEにおけるカラーの図、表および写真の掲載に伴う費用（投稿規定別記に示す）は投稿者の負担とする。
12. 掲載された第1項1）から第1項9）までの原稿の投稿者は別刷を著者負担で作成することができる（投稿規定別記に示す）。
13. 内容が第三者の了解を要すると判断される場合（ほかの著作物からの図、表、写真あるいは文章の一部をそのまま転載する場合、特定プロジェクトに関係する場合など）は、あらかじめ投稿者の責任で処理しておくものとする。商業誌、所内報などに既に印刷済みのもの、あるいは投稿中のものと重複した内容をもつ原稿を投稿するときは、必ずその旨を明記する。上記の著作権問題は、著者自身が解決のうえ、許諾報告書等を改ざん防止処理をした電子ファイル（PDFファイル形式）として提出すること。
14. 学会誌に掲載する著作物の著作権（著作権法27条、28条に定める権利を含む）は一般社団法人日本応用地質学会に帰属（譲渡）する。ただし、著者がこれらの全部ないし一部を著者自身で他に利用する場合は、その旨を本学会に通知し、かつ、その記事の出所を明示すれば足りうるものとする。第三者から転載申し込みのあった場合には、本学会が可否を決定するものとする。
15. 原稿の投稿先は編集委員会とする。

附 則 本規定は令和3年10月5日より施行する。

原稿送付先：一般社団法人日本応用地質学会 編集委員会

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-3-14 お茶の水桜井ビル7F

E-mail : office@jseg.or.jp, Tel. 03-3259-8232, Fax. 03-3259-8233

投稿規定 別記

1. 超過ページに対する著者負担は、1ページにつき10,000円とする。
2. 電子ファイルの容量は、5MB以下とする。
3. 学会誌におけるカラーページの著者負担は、1ページ目は50,000円、2ページ以降は1ページにつき25,000円とする。
4. J-STAGEにおけるカラーの図、表および写真の掲載の著者負担は、図、表および写真の1点につき2,500円とする。ただし、学会誌をカラーページとした場合は除く。
5. 別刷の部数は原則20部以上とする。料金は、部数にかかわらず、下表のとおりとする。

原稿のページ数	1～6	7～8	9～10	11～12	13～14	15～16	17～18
1部あたりの金額	70円	90円	110円	130円	150円	180円	210円

*金額は税込み

執筆要領

1. 原稿の構成

- 1) 個人もしくは連名での投稿の場合、投稿原稿にはすべて、和・英文の標題と投稿者名を添える。ただし、投稿者名のローマ字書きは、姓は大文字とし、名は第2字以下を小文字とする。また、本学会会員の場合は、投稿者名の後に“(会員)”と記述する。
- 2) 原稿第1ページ目に脚注として投稿者の所属する機関名ならびにその英訳を書く。また、著者の希望により代表者1名のE-mailアドレスを記載できる。
- 3) 団体としての投稿の場合は、投稿者は団体名とし、原稿第1ページ目の脚注に、当該団体所属メンバーの氏名と所属機関を列記する。表記は、個人名での投稿に準じる。
- 4) 論説、論文、速報論文、報告、短報には和文要旨および英文要旨を添える。和文原稿の場合は、タイトルページに「和文のタイトル、著者名、和文要旨(500字以内)、キーワード(4語以内)」を、最終ページに「English title, author's name(s), abstract (within 800 words) key word (within 4 key words)」を掲載する。英文原稿の場合はこの逆とする。また、解説、資料にはキーワード(4語以内)を添える。

2. 文章と文体

- 1) 文体は口語常態(である体)、現代かなづかいを用いる。漢字は原則として常用漢字を使用する。ただし、固有名詞や学会で広く用いられている慣用の語はこの限りではない。また、本文中の人名には敬称を付けない。
- 2) 句読点は、を、を用いる。
- 3) 本文中に外国語を挟むことはできるだけ避ける。ただし、生物の学名、適当な訳語がない術語、固有名詞などはこの限りでない。
- 4) 数字はアラビア数字を用いる。文中に数式を挿入するときは、 $Y=a/b$, $\exp(-t/X)$ のように印刷に便利な書式とする。
- 5) 単位系は原則として国際単位系(SI)とする。
- 6) 下記のような誤りやすい文字はとくに注意すること。
 - i) 数式、生物の学名等に対するイタリック字体
 - ii) 太字体
 - iii) 本文中の各図、表、写真番号で最初に出てくる番号の太字体
 - iv) 数式における添字(上付き、下付き)
 - v) ローマ字 c, v, w, z などの大文字と小文字
 - vi) ギリシャ文字等

3. 原稿の書式設定

- 1) 原稿サイズは、A4判とする。1ページの文字詰は26字×24行(英文原稿の場合はフォントサイズ12pt, 1ページ24行)とし、上下と左の余白は30mm, 右の余白は50mmとする。各行の左横に各ページ毎の行番号を付け、下部余白中央にページ番号を入れる。
- 2) 章、節、項は下記の例のようにする。ただし、箇条書きの場合は両カッコ以外のものを使用する。
(例) 1. → 1.1 → 1.1.1 → (1)
- 3) 図、表および写真を入れる位置は、原稿の右側余白部にコメントとして入れる。図、表および写真は、図-○、表-○、写真-○のように記述する。
- 4) 脚注はその都度原稿用紙の下部を使用すること。ただし、脚注がかなり長くなるようであれば、別の原稿用紙に書く。文中には*印、**印などを付け、場所を明示する。

4. 引用文献

引用した文献は引用順に番号を付け、以下に示す例に従って一括本文末にまとめて記載する。本文中には引用箇所につき数字で1), 2), ……として記入する。なお、出典名の表記はできるだけ省略しないことを原則とする。ホームページ (HP) を引用文献として参照する場合は、投稿時にHPのデータ・情報が最新のものであることを確認すること。

(例)

引用文献

- 1) 三浦 清 (1973) : 深成岩類の風化に関する研究 (第1報), 応用地質, Vol. 14, No. 3, pp. 87-102.
- 2) 都城秋穂 (1965) : 変成岩と変成帯, 岩波書店, pp. 58-87. (単行本の一部の引用の例)
- 3) 湊 正雄・小池 清 (1985) : 新版地質調査法, 古今書院, 161p. (単行本一冊全部引用の例)
- 4) 水谷伸治郎 (1995) : 地下処分の現状, 欧米諸国における研究の動向と地質環境, 放射性廃棄物と地質科学 (島崎英彦・新藤静夫・吉田鎮男編), 東京大学出版会, pp. 309-340. (編者の単行本の一部の引用の例)
- 5) Droste, J. B. (1956): Alteration of clay minerals by weathering in Wisconsin Tills, *Bull. Geol. Soc. Amer.*, Vol. 67, pp. 911-918.
- 6) Carroll, D. (1970) : Rock weathering, Plenum Press, New York, pp. 81-115. (単行本の一部引用の例)
- 7) Harris, R. C. and Adams, J. A. S. (1966) : Geochemical and mineralogical studies on the weathering of granitic rocks, *Amer. Jour. Sci.*, Vol. 264, pp. 146-173.
- 8) Tsukahara, H. and Ikeda, R. (1987) : Hydraulic fracturing stress measurements and in-situ stress field in the Kanto-Tokai area, Japan, *Tectonophysics*, Vol. 135, pp. 329-345.
- 9) Engelder, T. (1987) : Joints and shear fractures in rock. In *Fracture Mechanics of Rock* (ed., B. K. Atkinson), Academic Press, London, pp. 27-69. (編集者付き単行本の一部引用の例)
- 10) メイスン, B. (1970) : 一般地球化学, 松井義人・一国雅巳訳, 岩波書店, pp. 184-231. (翻訳本の一部引用の例)
- 11) Baise, L. G., Kaklamanos, J., Berry, B. M. and Thompson, E. M. (2016) : Soil amplification with a strong impedance contrast : Boston, Massachusetts, *Engineering Geology*, Vol. 202, pp. 1-13, doi : 10.1016/j.enggeo.2015.12.016. (オンラインジャーナルでページ付けがある場合の引用の例)
- 12) Royer, A., Montuire, S., Legendre, S., Discamps, E., Jeannet, M. and Lécuyer C. (2016) : Investigating the influence of climate changes on rodent communities at a regional-scale (MIS 1-3, southwestern France), *PLoS ONE*, doi: 10.1371/journal.pone.0145600. (オンラインジャーナルでページ付けがない場合の引用の例)
- 13) 東京大学空間情報科学研究センター (2016) : Geocoding Tools & Utilities, <http://newspat.csis.u-tokyo.ac.jp/geocode/>, (2016年1月25日閲覧). (ホームページ (HP) を参照する場合の引用の例)

(本文中での引用例)

湊・小池³⁾は……と述べている。Carroll⁶⁾によれば……、……とされている^{2), 7)}。

5. 図・表・写真

- 1) 図・表等は整理されたものとし、生のデータのみを多数載せることは避けること。
- 2) 図・表等は1枚ごとにA4判サイズで作成する。
- 3) 図・表内の文字、数字、記号等は誌面およびJ-STAGEに掲載される大きさおよび色調を考慮して適切な大きさおよび色調とすること。
- 4) 図・表等は、学会誌またはJ-STAGEにおいてモノクロ指定の場合は、提出原稿もモノクロとする。
- 5) 図・表等は、学会誌またはJ-STAGEにおいてカラー指定の場合は、提出原稿もカラーとする。
- 6) 校正時の図・表等の訂正・修正は原則として認めない。
- 7) 図・表等の刷り上がりの大きさは、原則として投稿者が指定する。その際、文字原稿枚数との概算は、下記を基準として行う。ただし、刷り上がりの大きさは変更することがある。

	刷り上がりの大きさ		原稿の枚数
	たて	よこ	
1 ページ大	17.4cm	24.6cm	4 枚 (2496字)
	24.6	17.4	
1/2ページ大	11.5	17.4	2 枚 (1248字)
	24.6	8.2	
1/4ページ大	5.8	17.4	1 枚 (624字)
	11.5	8.2	
	24.6	3.5	
1/8ページ大	5.8	8.2	1/2枚 (312字)

- 8) 図・表等の原稿には右上欄外に図表番号・標題を付けること。標題は和・英文いずれでもよい。ただし、英文の場合は和文の対訳を添えることが望ましい。
- 9) 図・表等の標題、解説文等は別紙に一括して記入すること。
- 10) 図（とくに地形図、地質図等）の内容の大きさを示す場合には、何分の1という表現は避け、必ずスケールを入れること。
- 11) 表中の数字は小数点の位置をそろえること。

6. 英文原稿

- 1) 英文原稿は語学的に難点のないことが必要であり、投稿者の責任において完全を期する。
- 2) 文中でローマ字書きした日本の地名、地層名等は文末にアルファベット順に表示し、その原名（漢字）を示すこと。ただし、一般に周知のものは省略してよい。
- 3) 英文以外で書かれた文献を引用する場合には、その文献の末尾の語の右上方（上付き）に*印、**印などを付し、引用文献の最後にその意味を説明する。
- 4) 上に規定したほかは、和文原稿の規定に従うこと。

7. 校 正

- 1) 論説・論文・速報論文・報告・短報・解説・資料・提言・討論の著者校正は、原則として初校1回で行う。
- 2) 著者校正の際の大幅な変更は認めない。
- 3) 著者校正の期間は原則として1週間以内とする。
- 4) J-STAGEに登載する際の書誌情報等の確認も同様に行うこととする。